

9時限目：Localストレージ



先生、おはようございます。

みなさん、おはようございます。早速ですが質問です。

みなさんがゲームを作ったとしましょう。今日は80点ゲットしたとします。PCを閉じて明日になって、ゲームを始めたら0点になっていたらどうでしょう。



悲しいです。。。

そうですね、ですから、HTML5にはいくつかデータを保存する方法があります。その中から今日はLocalストレージを学びましょう。

1. Localストレージ

Localストレージは、ブラウザの中にある貯蔵庫（=ストレージ）に、荷札のようなものとデータをペアにして保存する仕組みです。荷札のようなものをkey、データはvalueと言い、この方式をkey-value方式といいます。またこのストレージを管理しているものが「localStorage」です。

データの入っているストレージは、それぞれに管理されます。例えば別のURLのサービスと混線することはありません。またブラウザが異なるとストレージも異なるので注意しましょう。

データの保存

keyとvalueをセットにして保存します。

```
localStorage.setItem( [keyの値] , [valueの値] );
```

データの読み出し

keyを元にvalueを呼び出し、変数aに代入します。

```
let a = localStorage.getItem( [keyの値] );
```

データの削除

keyに紐付いたvalueを削除します。

```
localStorage.removeItem( [keyの値] );
```

全データの削除

全データを削除します。

```
localStorage.clear();
```

簡単なデータ保存サンプルです。

```
<h1>データ保存</h1>
<p>キー : <input type="text" id="input1"></p>
<p>値   : <input type="text" id="input2"></p>
<p>
  <button onclick="clk1();">保存</button>
  <button onclick="clk2();">読出</button>
  <button onclick="clk3();">削除</button>
  <button onclick="clk4();">全て削除</button>
</p>
<script>
  const input1 = document.getElementById("input1");
  const input2 = document.getElementById("input2");

  function clk1(){
    localStorage.setItem(input1.value , input2.value);
  }
  function clk2(){
    input2.value = localStorage.getItem(input1.value);
  }
  function clk3(){localStorage.removeItem(input1.value);}
  function clk4(){localStorage.clear();}
</script>
```